

創価大学教職大学院

NEWSLETTER Summer 2025



教職大学院 指針

- 一、子どもの幸福を目指す 慈愛の教育者たれ！
- 一、生命の尊厳を護り抜く 正義の教育者たれ！
- 一、平和の世界を創造しゆく 英知の教育者たれ！

2008年3月16日に創立者池田大作先生より拝授

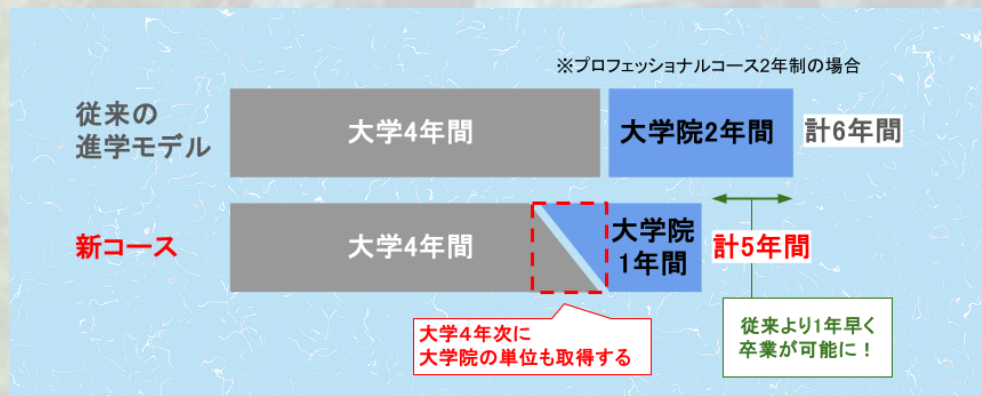


研究科長 石丸憲一先生

創価大学教職大学院が発足して、18年目を迎えています。300人を超える修了生が教育界で活躍しています。学校で教師力、授業力を発揮している、教育委員会等で教育を支える裏方を担っている、学校管理職として教育を先頭に立って牽引しているなど形は様々ですが、皆心は一つ、子供たちの現在と未来の幸せを実現することを目指していることは間違いありません。

現行のカリキュラムに「人間教育の理論と実践」という科目があります。全教員が3コマ程度を受け持ち、それぞれが考える人間教育の具体を授業という形で表現しています。院生も教員も、もちろん修了生も、皆が人間教育という理念でつながっていることが、創価大学教職大学院のパワーの源となっているのです。

創価大学教職大学院では、新たに学部4年次から大学院科目を先行履修し、5年間で学部と大学院を一貫して修了できる特別コースを開設することになりました。教員不足や教育の複雑化が進む現代において、より専門的かつ実践的な力を備えた教員の育成が急務です。本コースでは、夏季集中講座などを活用し、効率的に単位を修得。高度な専門性、実践的指導力、確かな授業力を磨き、未来の教育現場をリードする教員を育成します。





高木 正之 先生

教職大学院での学びは、現職教員にとっては自らの実践、ストレートマスターにとっては過去の実践例を問い直し、理論と結び付けながら新たな知見を得る貴重な機会です。現在、学校種を問わず探究的な学習が求められています。私が専門とする初等理科教育では、昭和の頃から問題解決の学習が求められています。しかし、子どもたちが疑問や問いを科学的に追究し、結論を導くことができるように育てていくために教師には高い授業力が必要で、その高みに至るのは容易ではありません。教職大学院の仲間と共に探究し、対話を重ねることで、教員としての視野が大きく広がり、授業力が向上することが期待できます。

相樂 直子 先生

昨年度、本学教育学部に着任し、今年度より教職大学院所属となりました。専門は学校心理学で、研究テーマは、教師が多職種連携を学ぶ教育・研修プログラムの開発です。

教職大学院には、現場経験豊かな現職教員に加え、学部卒業後すぐに進学したストレートマスターの院生も在籍しており、立場の異なる仲間と実践を学び合う日々は大きな刺激となっています。現場での課題に理論を重ね、理論から実践への視座を得る——そうした「理論と実践の往還」を実感できることが、この大学院の大きな魅力です。

教育に情熱をもち、学び続けたいと願う皆さん、教職大学院で多様な仲間と共に学び、実践と研究を往還する学びを深めてみませんか。



窪田 香 先生

今年度、新しく教職大学院に着任した窪田です。専門は外国語教育です。

外国語の指導方法に加え、シンガポールの学校を訪問し、現地の教員と教育の違いについてディスカッションを行ったり、児童・生徒向けに授業を実施したりする実地研究の授業などを担当しています。これまで東京都教育委員会で施策立案や教員研修に携わってきた経験を活かし、現場に根ざした教員研修や教育行政の支援の在り方についても、皆さんと一緒に考えています。

教職大学院の学生の皆さんは、教えることへの情熱や、より良い教育を目指すひたむきな姿勢にあふれています。そんな皆さんと学び合いながら、私自身も日々刺激を受けています。



Interview 本学大学院を修了後に大学院の学びを教育現場で活かして、
ご活躍されている先輩方の声をご紹介します。

16期人間教育実践リーダーコース 坂上 裕久 先生



「創立者のもとで再び学びたい」という強い思いから、教職大学院への進学を決意しました。この学びは、教育行政の場で学校マネジメント、学校支援、校内研究の講師、特別支援教育など多岐にわたる場面で役立っています。

また、研究方法や論文作成の技術を習得したことは、卒業後の学術論文作成に大きく貢献しました。何よりも、最高の先生方と同期と共に学びを深められたことは、かけがえのない金の思い出となっています。

13期人間教育プロフェッショナルコース（2年制） 西方 光一 先生



私は理工学部から教職大学院へ進学しました。大学院では理科教育だけでなく、教育心理、特別支援教育、学級経営、創価教育、現在で言う個別最適な学び等、幅広い観点で教育について学び深めることができました。

また、教職大学院での実習終了後も、実習先の学校で特別支援学級の指導に講師として関わらせていただきました。その経験は自身の教育観の形成だけでなく、採用される学校にも影響がありました。

日々学校で子どもたちと関わっていると、「今日の授業の発問はあれで良かったのだろうか」あるいは「あのときの生徒への声掛けは別の伝えの方が良かったのではないか」など、ふとしたときに振り返ることがあります。そうしたとき、大学院での学びや経験は立ち返るべき原点になっています。

採用4年目の現在、若手教員として学ばなければならないことは多いですが、共に学んだ仲間、指導していただいた先生方を思い浮かべ、努力を重ねていく決意です。

去年、講師として講演いただいた
難病ALSと闘う
竹永先生の本が
第71回青少年読書
感想文全国コンク
ール 課題図書に！

思い通りにいかないこと、つらく苦しいことがおそいかかってきたときに、「なんで自分ばかり」「なんて不幸なんだ」と下を向いてしまうのか、「心は絶対に負けない」「どうやってこの試練を乗り越えようかな」と、わくわくしながら挑むのか。同じ人生でも、「心」一つでこんなに違いがあるのです。

そして、どちらの道を「選択」するのか、迷ったときに助けてくれるのが、心の中の「僕のドラゴン」なのだと思います。誰にでも訪れる、その「選択」のときのために、私は子どもたちと一緒に、心の中のドラゴンを毎日コツコツ育てています。

（竹永亮太先生 あとがきより）



5/31～6/1で体験学習を計画・実施しました。

高橋 昭博（人間教育実践リーダーコース）

運営する側，参加する側という両方の視点から「体験活動の中で学ぶ」ことの意味を深く考えました。「仲間（みんな）が主役」というテーマ通り，それぞれの気持ちが折り重なった厚みのある学びになり，次につながる経験となりました。



三枝 英之（人間教育プロフェッショナルコース2年制）

プロフェッショナルコースと現場経験が豊富なリーダーコースが協力し合うことで，互いの姿勢や知識といったものをより良いものにすることができた授業でした。宿泊学習に向けた具体的な取り組みや活動をすることができ，これまでにない実践的な学びにつなげることができました。



6/28～7/4でシンガポール研修を計画・実施しました。

佐生 瑞穂（人間教育実践リーダーコース）

シンガポールは多民族の文化をそれぞれ尊重していて温かい雰囲気を感じました。シンガポールの先生方は，皆さん教育への情熱と信念をもっていて，学ぶべきことがたくさんありました。先生や学生と一緒に過ごした1週間は，かけがえのない経験になりました！！



谷平 真弓

（人間教育プロフェッショナルコース3年制）

人が教育をつくっているということを改めて学ぶことができました。旅行では経験することのできない現地の先生方との学びは，人生の宝物になりました。これから活かしていきたいです！



素晴らしい出会いの中で教育とは何かをあらためて深く問い直す旅になりました！

